

サケ皮の装い

秋になると群をなして川を上ってくるサケは、古来から食べ物として重要なものですが、そのほかにさまざまな用途に利用されてきました。

現在、いしかり砂丘の風資料館で開催している「サケの考古学」展では、サケの利用法のひとつとし

て、サケの皮を使った服（魚皮衣^{ぎよひい}）や靴（ケリ）を展示しています。

写真の魚皮衣は、（財）北海道ウタリ協会鶴川^{むかわ}支部が平成13年に作ったものをお借りしてきたものです。60匹のサケの皮が使われており、全体に美しい文様が刺繍^{しゅう}され、すその黒い部分

60匹のサケの皮で作られた
魚皮衣

◀コイの皮を使ったすそ部分

はコイの皮が用いられています。

魚皮衣は、動物の毛皮に比べ軽く、防水性に富んでいます。

北海道のアイヌの人々が作っていたかどうか分かりませんが、カラフトのアイヌ民族や北方民族が作ったものが知られています。

魚皮衣は、サケからはいだ皮を木づちでたたいてなめます。この魚皮衣を作る際には約5カ月かかったそうです。

皮をなめす際に使ったと思われる木づちは、北海道の遺跡からも発見されています。縄文人は、サケの皮を使った服を着ていたのかもしれない。砂丘の風資料館では、約3千年前の千歳市キウス5遺跡から出土したものを展示していますので、魚皮衣と合わせてご覧いただければと思います。

（工藤義衛）

木づち

いしかり砂丘の風資料館 特別展「サケの考古学」

開催期間：平成17年9月1日～10月31日（毎週火曜休館）

開館時間：9:30～17:00 入館料：大人200円（中学生以下無料）

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp